おちほ

第25号　平成８年５月30日　発行　社会福祉法人　椎の木会　落穂寮　発行者　山下　陽一

『一年の計は、おみこしづくりにあり』

落穂寮の新年度は、氏神祭りに向けてのおみこし作りから始まります。職員の顔ぶれが変わって間もなく、何を作るのか、どのように作るのかを検討し、毎晩遅くまでかかって作り上げていく過程で、氏神祭りを迎える頃には、しっかりと職員のチームワークができあがっているのです。当日は、そのおみこしを寮生さんと一緒にかつぎ、神社まで歩く事で、職員と寮生のつながりができあがり、棟としてもまとまるのです。

さて、今年は、A棟「ねこバス」、B棟「ウルトラマン」、C棟「ミッキーマウス」というおみこしで、それぞれ一年の健康と育みを願って、小雨降る中を元気いっぱいに練り歩きました。常日頃、地域の方々に何かを提供できているわけではありませんが、「わっしょい」のかけ声に誘われて、家から出てこられ、笑顔で声援を送って下さる方が多くあったことに、雨の中でも〝やって良かった〟と思ったのは、私だけではないと思います。

変動の年が始まりました。皆様の声援をよろしく御願い致します。

ふくし今昔

落穂寮赴任の頃の思い出

理事長　増田　正司

昭和32年3月、新しい職場落穂寮の職員家族舎の新居に入った。裏山に沿って建てた青年達の家「成人寮」がある。玄関からの直線の廊下の両側に指導職員の部屋があり、左側に6畳間と、右側に3畳のコンクリート土間つきの四畳半の2つが、これからの我が家4人の新居だ。先任の岡山君が、「粗末な住居でわるいな」と、すまなそうに案内してくれた。

近江学園在職中の昭和30年春、糸賀先生に口説かれ、横浜市内の民間の児童障害施設の建て直しに赴任した。家族に何の相談なしに赴任を決めたと後々まで苦情をいわれた。2年間がんばり、どうやら建て直しが軌道にのり、運営の成果もあがり、内外からの評価もあがってきた。知人・友人も増え、乏しいながらも都会の生活に慣れ、娘が地域の幼稚園に入園の手続きを済ませ、その準備が進んでいた。

そんな折、「滋賀に戻り、落穂寮のため働いてほしい」と、糸賀先生の親展書簡が届き、追っかけて鎌倉さくら塾の辻信彦さんがやってきた。家内と2人で話しを聞く。「君をおいて他に引き受け手がない。どうか糸賀先生の信頼に答えてほしい」辻さんの熱弁を聞きながら糸賀先生の顔が浮かぶ。3人の話しは行きつ戻りつ時間が過ぎてゆく。ついに、家内も意を決し、賛成と答えてくれた。われわれの決意を聞き、辻さんは眼に涙をためめ、「うれしい報告ができる。有難う。」と固い握手をかわしてくれた。

突然の退任を翻意するよう経営者から強く望まれ、主管の行政官が「横浜に残り、新設の公立施設長に就任してほしいのだが」と誘われた。このまま横浜にいたいと家族も願ったが、赴任を決断した。

旧知に再会し、故郷に帰ったような喜びと懐しさをかみしめることができた。しかし、横浜の暮らしに比べ何と手狭で不便な、辛い生活だろうか。しばらくは我慢してほしいと念じた。壁一枚向うに、12人の青年が住み、隣接の3畳間に保母さんが寝起きし、我が家の4畳半間の隣室3畳間には保母と調理員の2人が住んで、洗面所と便所は住人全部が共用だ。何もかにも押しこめた雑居生活のようだ。

▲昭和32年の夏の落穂寮と増田先生（左端）

我が家の子どもは、寮生を友達に一緒に遊ぶ毎日だった。家に戻った下の息子が突如倒れ、手足をばたつかせヒューヒューと息をし始めた。家内が何事ならんと慌て近付くと、「ホッサ、ホッサ」と立ち上った。幼い息子の友達寮生がてんかんの発作を起こし、心配して職員を呼びにいった由のお手柄でもあったが。娘が小学校に通うようになった。寮生に集団赤痢が発生し、寮内全員外出禁止になり、娘の登校も止められた。事情がのみこめず、通学すると泣き叫ぶ姿を見て、何ともやりきれず歯ぎしりするだけだった。

寮生とふれながら、哀歓をともに過ごした娘・息子も、今は子もちの親になった。人を愛し、人に優しくすることを、寮の生活から身につけてくれると確信します。

ふくし今昔

いのちのすがた

寮長　山下　陽一

「お母さん育ててくれてありがとう」がんに敗れし吾子は九歳
　　釘宮由紀子（朝日歌壇）

春の日差しを受けてうららかな季節を迎えたときに、冒頭から肺腑をえぐるような挽歌を挙げましたが、思いを語らずにはおれない歌に出会いました。

私はこの歌は決してうまい歌とは思いません。選者は手元に寄せられた数千首の歌から十歌選に推すとき、もっとうまい歌が沢山あったことだろうと思います。うまさを超えたものが選者の心を揺り動かしたのだろうと思います。

永年連れ添った夫婦が、幾十年の喜びや苦しみを共有したその別離の際に、相手へのねぎらいと感謝の言葉に周囲の人を感動させることはよくあることでしょう。その二人の間の永年の思いの丈を語るとき、無限の時間が必要とされることでさえ、一瞬の視線の交叉で解かり会えるのです。しかし、この歌はそれとは少し違います。

今日では、赤ちゃんを「育てる」というよりも「ケアする」といういい方に変りつつあるとか。親とこどもとの間柄が変化していることの指摘は以前からありますが、わたしは先程の「ケア」が象徴しているように、こどもと親の間になにかが介在して「ケア」の概念になっているように思えてなりません。

親と子の一体感が変わってきており、吾子への思いも変わってきているので「ケア」（育てるのではなく、お世話）するというとらえ方になってきたのではないかと思います。冒頭の歌はこれに一矢を報いることになってはいないでしょうか。

◀共に育ち、育てられています。

先日、岐阜県根尾の「淡墨桜」を見てきました。ある編集者がこんな言い方をしていました。「あのさくらは、木なんてものじゃありません。ありゃあ、おばけです。」

なるほど、その枝振りは歌舞伎役者が六方を踏み、見えを切る姿よろしく、枝えだには丸太の支柱が添えてありました。樹齢は地元の伝承では千五百年に達するものとか。敗戦後に若い根を添えたし、樹勢を強化したということです。恐らく長い生命を持続させるには、太い枝も風雨にあて、命の維持にもっとも精をつかわないですむように削ぎ落してここまで生き伸びてきたものでしょう。村人達は桜を守るために、鳥を追い払うための爆音機をしつらえ、枯れた所は削りとって樹脂を巻き、敷きわらをして保護に懸命の様子でした。それにしても千五百年のいのちの前には圧倒されずにはおれませんでした。

成人施設化を考える

DREAMS COME TRUE.

「想い」

保母　南　さつき

一体、何をどこから、どの様に考えればいいのだろう…。

落穂寮成人施設化の話が持ち上がり、随分経つ様ですが実際自分自身に突きつけられると、戸惑わずにはいられませんでした。大した知識も経験も兼ね備えていない私には、ただ漠然とした題であり、又、自身の中にぼんやりとした想いを描く事が出来ても、どのような方向性を持ち、そのためにはまず今出来る事・始められる事は何なのかという具体的なラインが見えていませんでした。

その様な中、職員が集まり寮の将来構想を煮詰めるべく、話し合いが持たれたようになります。私も含め経験の浅い職員が殆んどである為、まずは滋賀県の福祉現状を知るといった、取り分け勉強会的な所から話が進められました。話が進行していくにつれ、徐々に自分の中でぼんやりとしていたものにアウトラインが見えてき、それに伴って意欲も沸々と出てきました。が、正直言うと現在の寮生活で手一杯であると感じる事が多々あると同時に、個々の寮生に対する促え方やケアがまだまだ不充分で、もっとこうしたい・ああ出来れば、という自身の力量不足からくるジレンマに陥ることもしばしばです。

意欲はあれど、とりあえず今確実に出来ること。初めの取りかかりは本当に小さなものですが、寮が動き始めました。そして少しづつその範囲が拡げられるよう意識すると共に、自分自身も高めていかなくてはと思っています。

日々の生活に追われ、『いずれは地域社会で生活を送れる様に援助する』という意識が薄れがちですが、その事を念頭に置いた上で、寮生さんの想い、親御さんの想い、在宅で頑張っておられる方々が望まれている地域福祉サービスへの想い、そして、私たち職員の意識と想い、それらみんなの想いに添った落穂寮でありたいし、そのように成人化していきたい。

本音を言えば、以前までややこしい時期に来たものだと思っていましたが、今では大変だけど、これからの躍動的な面白い時期に自分がいるということをうれしく思っています。さあ、これからです。

▲夕食後のお勉強ＴＩＭＥ

〝雰囲気〟

保母　馬場　和美

45周年を迎えた落穂寮が児童施設から成人施設化を考えています。これは当然の成り行きです。現在生活している寮生さんの大半が児童から成人に、残りの児童が成人に達するのも、そう遠くはありません。その為にも、早急に落穂寮が成人施設化できる様に私達は動いていかなければいけないのです。

私は昨年度まで日課班の梅組を主にみてきました。梅組は落穂寮の中で最重度者が多くいる班です。日課活動としては午前中に缶拾いを兼ねた歩行、午後は砂利・草運び、缶つぶし、造形活動、とてもものんびりしながら活動です。私はこのゆったりとした活動がとても好きです。寮生さんが出来る範囲で少しずつ一緒に作りあげ、時間に追われていてもマイペースで動く彼、彼女らの雰囲気を壊したくないです。しかし最重度者にとって一番の心配は高齢化による健康の事です。歩行を重視しているのは体力をつけてもらう為です。行事などではしゃいだ日の翌日は体調を崩しやすいのです。体力の低下がみられるのでしょう。この現状は今後さらに避けられない問題です。私達は健康に関してもっと勉強し、その問題に対処していかなければならないのです。

ところで滋賀県下で成人施設が増えてきていますが一つ気になるところがあります。それはどこの施設も同じ様な建造物である事です。集団生活で新しく建て直すとなると、建て物が決まってくるのでしょうか？。私は今の落穂寮の家庭的雰囲気を持つ建て物が好きです。現在の落穂寮は児童施設の配置である為、じきにくる成人者向きに考えていかなければいけないのでしょうが、今の建て物からくる雰囲気は壊したくないですね。

動続年数が少ない私がこの様な勝手な思いを書きましたが、今後落穂寮が変わっていく為には、小さな雰囲で動く施設ではなく、地域に開かれた施設となって、もっと社会と関わっていけばと思います。さらに、医療がしっかり備わっていれば、寮生さんや親御さんも安心して生活が送れるのではと思います。最後に現在落穂寮がもっているアットホームな雰囲気は大切に残していきたいと思います。

▲風呂場の前にて

「将来」

今井　かおる

私は男子成人棟のＢ棟で三年間皆と一緒に生活してきました。落穂寮は今、児童施設ですが、成人棟で生活をしていると色々な事を感じます。

例えば、学籍児が学校へ通っている間、年長者は日課活動をしています。成人棟を見ていると日課は生活の中心になるもの。寮生さん個々にあった充実した日課内容を求めていくようになります。毎年、学校を卒業した寮生さんは今ある日課に入りますが、それぞれの日課では、寮生さんの人数は増えていくのに、日課を見る職員の人数は増やすことができません。それは、学籍児の生活を見る職員が必要だからです。もちろん、学籍児の居る棟からすれば、生活をもっと充実させたいという思いがあると思います。

その他にも、年齢的に上の寮生さんには、年間行事内容の中でも体力的にきつくなってきている面も見られてきたり、食事面でも皆同じように食べていますが、考えてみれば育ちざかりの子供に対して、Ｂ棟はもう大人。最近少しお腹がでてきたな…と心配するお年頃です。

こうして学籍児と年長者が一緒に生活していこうとすると、どちらにとってもベストな環境での生活・内容を提供していく事は難かしいと思います。

今回、落穂寮の成人化についてという事で、どんな施設にしたいか、寮の親御さんは皆の将来をどのように考えておられるのかと思いた直接聞いてみることもありましたが、近いようで遠い、遠いようで近い将来の話に、あまりピンとこないようでした。私は、話をしてみて〝こういう事が不安だ〟〝こうしてほしい〟とか、そういう要求を聞こうとしていましたが、『将来にピンと来ない』これが一番のニーズだと思いました。それだけ、寮生さんを受け入れる環境設備が整っていないことを知りました。

私は、落穂寮の家庭的な雰囲気が大好きです。これはずっとずっと大切にしたい部分です。そんな部分をなくさず、落穂寮がその一番のニーズに答えていけるような施設になれたらと思います。

▲昼下がりのひととき

DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE. DREAMS COME TRUE.

A棟といえば、年少児、つまり若い。そして…元気！暖かくなってくると俄然ウキウキし始める寮生さん達。バタバタと走りまわる職員を横目に、裸足で外に飛び出す者続出中。Aくんが外に出やすいように、戸を開けてあげるBくん…などと連継プレーもバッチリ。慌てふためく職員を見るとさらにうれしくなってしまうのです。

でも、いたずらも多いけど、やるときゃやる！消灯後のトイレ掃除など(職員の仕事なのに)職員よりも早く掃除に取りかかるみんな。段取りも良く、仕事も分担されていて、もうバッチリ。そうじ大臣に任命される人までいるほど。頼もしい限りです。

新年度は新メンバー1名を迎え、寮生15名、職員6名でスタート。大幅なクラス替えもあり、それぞれに新しい環境で最初はとまどい気味のようでしたが…、そろそろ…パワー全開、本領発揮?!さて、どんな1年になるのでしょうか。いろんな可能性を秘めたA棟寮生、若さを武器に…今日も、元気です！

（廣末）

今年のB棟は、職員の人事移動や、新メンバーの寮生が加入するなど、ゴロッと変わった新・B棟。しかも、『日課と生活を分けたメリハリある、充実した毎日を送る』ことに重点をおきました。これは、成人棟であるB棟の寮生さんにとっては、中心となる日課に集中して取り組むことが出来るし、一日一日がゆとりを持って生活出来るようになるのではないかと思います。

その生活面で、活動的に取り組んでいることがあります。ひとつは、洗たくものたたみ。自分のものは自分でたたんで片付けてもらうこと。そしてもうひとつは、自分で歯みがき、洗面をしてもらうこと。あたりまえのことだけどなかなか難かしく、四苦八苦しながらも、身辺自立に向けて頑張っています。

B棟のカラーは、明るく、楽しく、和気あいあいとしたところなので、これからも〝陽気に、元気に、生き生きと〟という雰囲気を大切にしていきたいです。

（川端）

新学期、また新しい一年が始まりました。帰省中、けがをしたり、風邪をひいたりした寮生さんもいたようですが、ゆっくり楽しんできたようで、みんな元気に帰ってきました。職員の方はというと、きっと寮生さんにも少しは伝わっているかと思いますが、新たにC棟へ来たり、クラス担当が変わったりして、不安いっぱいで一年がスタートしました。

新学期が始まって一週間、担当職員が替わり、不安からかイライラしてしまったり、落ちつかず興奮気味の人がいます。職員も、あれもしたいこれもしたいと思いながら出来ないことや分からないことが多いです。不安、希望、やる気を抱きつつ、少し、落ちつきがなくあわただしい毎日です。

今はこんな感じですが、これからお互いの信頼関係を深められるよう、そして楽しく元気な、笑顔いっぱいのC棟を目指して頑張っていきます。

（阪本）

初めの第一歩

里見　佳子

三年前に一年間だけでしたが、高校を卒業して落穂寮に就職し、B棟でお世話になりました。落穂寮を退職後、保育の学校へ進み、二年間保育を学び、今年度より再び保母として落穂寮にもどって来ました。

二年間落穂と離れていた間に、守山に蛍の里が開寮し、杉山の家が杉山寮として新しくスタートするなど、大きな変化と共に以前一緒に毎日を過ごしていた寮生さんが、新しい寮へと移ってしまっていた事が残念に思われますが、全て初心にもどって一から寮生さんと共に、毎日がんばっていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

学習発表会

B棟

去る三月十日(日)に、落穂寮学習発表会を行ないました。各棟ではそれまでに、練習に練習を重ねた劇を発表してくれました。A棟の『お父さん』は、父親を中心にある一家の家族愛についてを、B棟の『おばQ』は、おばけのQ太郎のメロディーに合わせて欲の為に戦う人間を諭している様な、またC棟の『雨さん、ありがとう』は、自分だけ良ければ、本当にそれで良いのか…。どの棟も、忘れかけていたものを教えてくれる、素晴らしい劇ばかりでした。

また今年度は、石部文化ホールで作品展を開きました。日課班活動の取り組みを紹介したり、寮生達の作品を展示。地域の文化ホールを利用しての作品展ということで、最初職員の方が引いてしまっていたのですが、何の何の。寮生達の作品は、そんなことに負けるはずがなく、寮内で終っていた時よりも、大勢の人の目に触れることによって、以前にも増して、より活き活きとした作品に見えました。そんな作品を目の当たりにして、今度は、もっと大きな舞台にと思ったのは、私だけでしょうか。

（も）

作品展 竹班

木工

梅の実のなる頃

梅干を漬ける時期が近づきました。梅干と聞けば、やはり今西君が一番さきに想い出されます。

私が落穂に初出勤した日、指導員室での朝礼で職員に挨拶し、ふと窓の外を見た時の『寮生と共になごやかに遊んでおられる若い男性職員』というのが私の今西君に対する第一印象でした。

仕事になれるに従って、彼の食べ物の好き嫌いの激しい性格が解って来ました。おかずによって御飯の進まない時でも、一人テーブルに残って御飯をおはしでつついている時でも、「梅干しあげようか」と声をかけると彼は大きな目をむけて、嬉しそうに茶腕を持って来て、一つの梅干しでおかわりもしてくれるのです。後半、身体調子が悪くなって、何も食べれない時、落穂のすっぱい梅干しを好んでくれました。彼は、晴風とか、秋風とか、台風だとか、なにか特別存在感のある風でなく、一年中、どこかで吹いている様な風でした。

どこからともなく食堂に現われて笑わせたり、困らせたり、冗談したり、そして芸能好きな本番に強い今西君は、学習発表会では本当に楽しませてくれました。

落穂の梅の木は故本田先生から、太田先生に引きつがれ、大事に剪定され、そして毎年寮生が日課で取ってくれる梅の実で、今年も梅干を漬けます。この梅干を愛してくれた今西君を想い出しながら!!

（み）

ゆげのむこうがわ

平成8年度 落穂寮年間行事予定

4月21日　全棟お花見遠足
5月1日　氏神祭・開寮記念日
4日　B棟阿星山登山
5日　A棟お弁当外出
12日　親の会総会
21日　B棟飯盒炊さん
26日　C棟飯盒炊さん
6月2日　A棟親子飯盒炊さん
2日～9日　短期帰省
15日　プール開き
親の会研修
7月7日　七夕フェスティバル
14日　スペスポ
21日　親の会草刈り奉仕
8月1日～3日　湖畔学舎
11日～25日　夏季帰省
8日　A棟飯盒炊さん
9日　B棟飯盒炊さん
10日　C棟飯盒炊さん
25日　納涼祭・地蔵盆
9月　お月見
日　A棟阿星山ハイク
8日　親の会寮内大掃除奉仕
10月10日　親子合同運動会
日　京滋レク大会
日　年長旅行
27日　A棟親子旅行
27日～11月3日　秋季帰省
12月22日　クリスマス会
日　各棟忘年会
日　親の会
23日～1月6日　冬季帰省
平成9年
1月12日　C棟新年会
15日　成人式
日　A棟新年会
日　B棟新年会
日　新春の集い
18日　親の会懇親会
2月3日　節分・マラソン大会
17日　C棟雪遊び
日　B棟親子旅行
16日　親の会
3月3日　おひな祭り
9日　学習発表会・親の会
15日　卒業祝賀会
日　A棟ご苦労さん会
日　B棟ご苦労さん会
25日～4月7日　春季帰省

▶年少旅行

▶A棟 阿星山登山

▶お月見

▶C棟プラスα雪あそび

泉

▽新年度が始まりました。今年も保護者の方、地域の方との合同行事を予定しています。日時の確定していないものは、決定次第お知らせしますので、是非御参加下さい。

▽落穂寮成人施設化の特集を始めて一年が経ちました。地域福祉・在宅福祉サービス、入居児・者のQOLの向上、施設の設備・機能の開放、と様々な課題が次々と提起され、これからのサービスの有り方を考えさせられる一年となりました。現在にとらわれる事なく、職員個々が夢を語り、どうすれば実現できるかを考える事で、より良いサービスが提供できる場となればと思っています。

皆さんの、多くの声と御協力を御願い致します。

木言（こと）

寒さが長引き、長く咲いていた桜も、青々とした若葉を身にまとい始めました。梅の実も、少しずつ存在を主張し始めています。

毎年、同じ事が繰り返される中にも、〝いのち〟というエネルギーを感じます。…少し分けてもらって…明日も笑顔で…。